

## 口頭発表

### グループA 11月17日午前 会場:江戸川大学 B棟603

- O1 09:00-09:20 白神山地における森林施業の現状とニホンザルの生息地復元の課題  
坂牧はるか・江成広斗・青井俊樹
- O2 09:20-09:40 白神山地と山麓の西目屋村における猿害発生と森林利用  
和田一雄
- O3 09:40-10:00 重度に人慣れしたニホンザル野生群の猟犬による追い上げ試験  
小金澤正昭・長谷川美香
- O4 10:00-10:20 北東北におけるニホンザルの広域管理を目的とした猿害リスク評価手法の検討  
江成広斗・鈴木透
- O5 10:20-10:40 自然攪乱が狩猟活動に与える影響—沖縄・西表島のイノシシ猟の事例から  
蛭原一平
- O6 10:40-11:00 エゾシカ猟における狩猟者の出猟実態  
車田利夫
- O7 11:00-11:20 西興部村における狩猟者育成事業が大学生の狩猟観に及ぼす影響  
野田江里・上田剛平・神崎伸夫・伊吾田宏正
- O8 11:20-11:40 マタギの狩猟獣に対する態度—山形県小国町マタギ猟師へのインタビュー—  
佐藤忍

### グループB 11月17日午前 会場:江戸川大学 B棟605

- O9 09:20-09:40 小笠原諸島母島南崎の海鳥繁殖地におけるノネコ侵入防止フェンス  
堀越和夫・鈴木創・佐々木哲朗
- O11 09:40-10:00 ツキノワグマが採食する食物の栄養価値  
時田昇臣・井堀久美・永光弘喜・名切幸枝・宮田紗希・後藤優介・  
有本勲・松本弥生・小池伸介・小坂井千夏・古林賢恒
- O12 10:00-10:20 共存モデル策定に向けたツキノワグマの土地利用解析  
玉谷宏夫・田中純平・樋口洋・小山克・大江久美子・吉本千恵美
- O13 10:20-10:40 宮城県金華山島におけるブナ豊作後のヒメネズミ個体数変化  
森田淳一・須田知樹
- O14 10:40-11:00 山梨県西湖及び精進湖におけるオオクチバスの食性  
角田裕志・千賀裕太郎・渡邊通人
- O15 11:00-11:20 水槽飼育下におけるヤエヤマノコギリハゼの遊泳行動と闘争行動  
西貝怜

**グループC 11月17日午後 会場:江戸川大学 B棟605**

- O16 14:00-14:20 野生動物救護現場における諸問題—岐阜大学附属施設での事例  
岡野司・浅野玄・鈴木正嗣・石黒直隆
- O17 14:20-14:40 イノシシの子と放牧ウシ  
仲谷淳・千田雅之・齋藤学
- O18 14:40-15:00 モンゴル草原における放牧による群落変化とこれに伴う送粉系の変化  
高槻成紀・吉原佑・佐藤雅俊
- O19 15:00-15:20 ミヤマシジミと6種のアリ類との共生関係における相違と共通性  
渡辺通人・大村尚・本田計一
- O20 15:20-15:40 ホトケドジョウの移動分散状況  
満尾世志人・大平充・千賀裕太郎
- O21 15:40-16:00 北海道の牧畜経営者のオオカミ復活に関する意識  
丸山直樹
- O22 16:00-16:20 栃木県八溝山地に生息するイノシシのmtDNA塩基配列の解析  
小堀則之・福井えみ子・小金澤正昭

**グループD 11月18日午前 会場:江戸川大学 B棟605**

- O23 09:00-09:20 公海におけるマグロ類の資源管理:ミナミマグロの場合  
高橋紀夫・黒田啓行・伊藤智幸・庄野宏・境磨・宮部尚純
- O24 09:20-09:40 「まもるべきもの」を考えるための社会的な戦略  
富田涼都
- O25 09:40-10:00 野生生物保護の新たな政策課題としての環境汚染と生態リスク  
—環境汚染に係る生態リスク評価・管理の理念と法制度の国際比較分析から—  
二宮咲子・川中洋平・王寧・尹順子・鬼頭秀一
- O26 10:00-10:20 海浜植生の現状と保全—市民参加の海岸植物群落調査から—  
開発法子・由良浩
- O27 10:20-10:40 市民による里やまのモニタリング調査手法  
廣瀬光子・開発法子・高川晋一
- O28 10:40-11:00 屋久島におけるニホンジカの生息状況と個体群管理のあり方  
—市民モニタリングによる合意形成をめざして—  
立澤史郎・高橋裕史・川村貴志・松田裕之
- O29 11:00-11:20 南西諸島における外来種問題の普及・啓発モデル授業報告  
草刈秀紀・山田文雄・五箇公一・竹村真由子
- O30 11:20-11:40 琉球列島における野生生物保護と環境アセスメントの問題点  
花輪伸一
- O10 11:40-12:00 ツキノワグマ大量出没の予測はどこまで可能か  
野崎英吉・小谷二郎・野上達也・林哲

## ポスター発表

11月17日午前 09:00-17:00 コアタイム 12:00-13:00 会場:江戸川大学 B棟604

11月18日午前 09:00-13:00 コアタイム 12:00-13:00 会場:江戸川大学 B棟604

活発な討議のために、60分以上コアタイムを設定してください。

可能な範囲で両日ともにコアタイムを設定して下さることを歓迎いたします。

- P1 栃木県における県外狩猟者の実態と県内狩猟者の意識  
深澤敦子・神崎伸夫・丸山哲也・戸田春那・上田剛平
- P2 栃木県における狩猟者の動向と猟場の選択  
戸田春那・神崎伸夫・深澤敦子・松田奈帆子・丸山哲也・上田剛平
- P3 島根県におけるイノシシ特定鳥獣保護管理計画導入後の狩猟実態の変化  
竹田直人・上田剛平・神崎伸夫・金森弘樹
- P4 栃木県日光国立公園における観光資源としてのシカとサルの評価  
小岩宏光・神崎伸夫
- P5 島根県におけるツキノワグマの捕獲実態と水稲被害  
澤田誠吾・金森弘樹
- P6 四国のツキノワグマは何頭いるのか？その保護管理計画について  
金澤文吾・草刈秀紀
- P7 行動に随伴した嫌悪刺激の呈示によるニホンザルの行動制御  
鈴木克哉・川合伸幸・杉浦秀樹・柴崎全弘・友永雅己・室山泰之
- P8 ノウサギとシカの種間関係について  
木村太一・小金澤正昭
- P9 島根半島湖北山地へのイノシシの分布拡大  
山川渉・金森弘樹
- P10 コナラ堅果およびゾウムシ幼虫の栄養成分  
宮田紗希・井堀久美・永光弘喜・名切幸枝・時田昇臣
- P11 ツキノワグマの栄養摂取量と消化率  
名切幸枝・永光弘喜・鈴木学・時田昇臣
- P12 プログラムフリーザーによるツキノワグマ精巣上体精子の凍結保存  
徳永佳三・村瀬哲磨・坪田敏男・浅野玄・鈴木正嗣
- P13 大阪南部域に生息する野生化アライグマの行動生態に関する研究  
山本祥多・夏原由博・大西義博・村濱史郎・前中久行
- P14 長野県における外来種アライグマ及びミンクの繁殖状況と齢構成  
葦田恵美子・福江佑子・岸元良輔
- P15 丹沢山地におけるニホンモモンガPteromys momongaの環境嗜好  
鈴木圭・安藤元一・小川博・天野卓
- P16 異なる森林サイズに生息するエゾモモンガの行動圏  
浅利裕伸・柳川久

- P17 森林地帯におけるホンドタヌキの行動圏サイズとその配置について  
關義和・小金澤正昭
- P18 エゾタヌキとホンドタヌキのミトコンドリアDNA多型  
的場洋平・松木吏弓・阿部豪・佐鹿万里子・荒木奈津子・奥祐三郎・揚妻直樹・浅川満彦
- P19 三宅島におけるニホンイタチによる鳥類への捕食影響  
上杉哲雄・樋口広芳・高槻成紀
- P20 血中乳酸値を指標とした傷病猛禽類の運動機能評価の試み  
浅野玄・岡野司・鈴木正嗣
- P21 音を用いたエゾシカのロードキル対策に向けた実験  
鹿野たか嶺・野呂美紗子・柳川久・宮西功喜
- P22 千葉県のユビナガコウモリの大規模ねぐらにおけるバットゲート設置前後の個体数変化  
野原良太・上條隆志・繁田真由美・繁田祐輔・安井さち子・三笠暁子
- P23 沖縄県石垣島におけるカグラコウモリ(*Hipposideros turpis*)の採餌場所  
小柳恭二・辻明子・田村常雄・長岡浩子・前田喜四雄
- P24 ニホンウサギコウモリにおける出生保育コロニーへの依存性と雌の性成熟年齢  
吉倉智子・三宅隆・石原誠・上條隆志
- P25 動物食哺乳類の出現頻度はヤマアカガエルの個体数に依存するか  
吉村理貴
- P26 北海道釧路川水系A川におけるイトウ (*hucho perryi*) の産卵生態  
笠井文考・小宮山英重・夏原憲子
- P27 多摩川永田地区の高水敷におけるハリエンジュ林の10年間の植生動態  
山口善子・星野義延
- P28 ひとと自然のかかわりの視点から見たヨシ原の生態系管理  
植松拓理・鬼頭秀一
- P29 リンゴ園に生息するフクロウの採食生態と環境利用  
佐藤翔・尾崎成・東信行
- P30 大阪府堺市における鳥獣害(アライグマ等)に対する農家の意識  
金井猛徳・小山修平
- P31 外来アライグマ問題におけるhuman dimensions  
池田透
- P32 長野県飯山市及び富士見町におけるツキノワグマに関する住民アンケート  
大江久美子・打越綾子・玉谷宏夫・樋口洋・田中純平・小山克・吉本千恵美
- P33 地域社会における野生動物保護管理の専門知発揮の条件  
打越綾子
- P34 全国の自然系施設の管理運営に関する現状  
東陽一
- P35 天間館神社蝙蝠小舎の建て替えとヒナコウモリの2回目の強制移住  
向山満

## テーマセッション

11月17日 会場:江戸川大学 B棟602

TS1 野生生物保護行政懇話会3 09:00-12:00  
順応的な野生生物行政は実現できるか  
責任者:奥山正樹(環境省)・丸山哲也(栃木県)

11月17日 会場:江戸川大学 B棟603

TS2 秋のツキノワグマの出没を考える 14:00-17:00  
責任者:古林賢恒(NPO法人ライチョウ保護研究会)

11月17日 会場:江戸川大学 B棟504

TS3 国内における絶滅危惧種PVAワークショップの有効性 14:00-17:00  
責任者:堀越和夫(小笠原自然文化研究所)

11月18日 会場:江戸川大学 B棟603

TS4 野生動物被害管理と地域資源の活用【GF「柿とりたい会」連動企画】 09:00-12:00  
企画:野生生物保護学会青年部会  
責任者:吉田洋(山梨県環境科学研究所)・中村大輔(岐阜大学)